

6. ユーザ信号ベアラサービス呼制御手順

未提供

6.1 概要

本サービスは、回線交換呼を設定することなしにユーザ・ユーザ信号により通信することをユーザに許可します。

一時的信号接続が回線交換呼の制御と同様の方法で設定され、解放されます。

6.2 呼設定

呼設定手順は、以下の修正も含め節5.1、5.2で規定したとおりです。

発呼要求時、発信ユーザは“伝達能力”及び“チャンネル識別子”情報要素によりSAPI=0の一時的信号接続を識別する「呼設定」メッセージを送出します。

「呼設定」メッセージでは、これを表示するため以下のように符号化されます。

・伝達能力情報要素

情報転送能力	:	非制限デジタル情報
転送モード	:	パケット
ユーザ情報レイヤ2プロトコル	:	J T-Q 9 2 1
ユーザ情報レイヤ3プロトコル	:	J T-Q 9 3 1

・チャンネル識別子情報要素

変更不可表示	:	変更不可
Dチャンネル選択表示	:	Dチャンネルである
情報チャンネル選択	:	チャンネルなし

要求された一時的信号接続サービスは認められていない、又は有効でないと判断した場合、網は以下に示す理由表示のうちの1つを用いて、5.3.2 a 節または5.3.2 c 節に従って呼の切断復旧を開始します。

- a # 5 7 “伝達能力不許可”
- b # 5 8 “現在利用不可伝達能力”
- c # 6 3 “その他のサービス又はオプションの利用不可クラス”
- d # 6 5 “未提供伝達能力指定”

着信ユーザは、発信ユーザに対し「応答」メッセージを送出することにより、一時的信号接続要求を受け付けます。

着信ユーザは、「応答確認」メッセージの受信後「ユーザ情報」メッセージの送を開始することができます。

発信ユーザは、「応答」メッセージを受信すると、「ユーザ情報」メッセージの送を開始することができます。

6.3 「ユーザ情報」メッセージの転送

一時的信号接続が設定された後、両者ユーザはユーザ・網インタフェースを介して「ユーザ情報」メッセージを転送することにより両者間の情報を交換することができます。

網は発側から着側、又はその逆にそのようなメッセージの転送を提供します。「ユーザ情報」メッセージは、“呼番号”、“プロトコル識別子”、4.5.2.9節で規定される“ユーザ・ユーザ”情報要素を含んでいます。“モアデータ”情報要素は生成ユーザから相手ユーザに同じブロックに属する情報を含む他の「ユーザ情報」メッセージが続くことを表示するため、「ユーザ情報」メッセージに含まれる場合があります。

“モアデータ”情報要素の利用は網によって監視されません。

6.4 「ユーザ情報」メッセージの輻輳制御

網またはユーザは必要な場合、輻輳制御レベルの情報要素を含んだ「輻輳制御」メッセージによって、ユーザまたは網からの「ユーザ情報」メッセージも転送のフロー制御を行います。輻輳制御レベルの2つの通知は、受信不可と受信可とに規定されます。受信不可通知を受信した場合、ユーザまたは網は「ユーザ情報」メッセージ送信を中断しなくてはなりません。受信可通知を受信した場合には送信は再開されます。受信不可通知を送信した後で、網またはユーザは引き続き受信した「ユーザ情報」メッセージを破棄します。「ユーザ情報」メッセージを破棄した場合、いつでも可能ならば網またはユーザは受信不可通知の「輻輳制御」メッセージを送信します。

「輻輳制御」メッセージには 理由表示（#43：アクセス情報破棄）も含まれます。

受信可通知の受信は次の受信可通知を受信する以前に“n”個を超える「ユーザ情報」メッセージが送信されないことを示します。

nの初期値がバーストパラメータxに等しいときは、それぞれの方向にn個のメッセージの送信に対するバースト能力が可能で、nの値はユーザがメッセージを受信する毎に1ずつ減少され、一定の期間T（T=10秒）毎にyずつ増加されます。但し、nはxを超えません。すなわち $n + y \leq x$ となります。

バーストパラメータxは、 $x = 16$ に、

補充パラメータyは、 $y = 8$ に設定されます。

(注) 網によってはさらに大きなxとyの値をサポートしますが、国際インタフェースに跨がる場合のxとyは上記の値に設定されなければなりません。ユーザー網間の合意なしにさらに大きな値を使用する場合は、網は適切な動作を取る必要があります。

網は、網の設定した輻輳の限界を超えて「ユーザ情報」メッセージを受信した場合、処理できないメッセージを破棄し、最初に破棄されたメッセージに対して輻輳制御通知で応答します。また網はフロー制御の制限の解除後最初に受信する「ユーザ情報」メッセージに対して、さらにメッセージが送信可能である通知を返送することにより応答します。

輻輳制御手順そのものはローカルな手順と見なされるべきです。輻輳制御手順のリモートへの適用は将来の課題です。

6.5 呼切断復旧

一時的信号接続の切断復旧はユーザ又は網により「解放」メッセージを送出することにより開始できます。

引き続き切断復旧手順、含まれるタイマは5.3.3節及び5.3.4節の回線交換接続の切断復旧と同様です。